

## 結（ゆい）・結（ゆい）がえし

昔は、田植えなど、人手のいる大変な作業を行うときには、<sup>ちいき</sup>地域の人がお互いに<sup>たが</sup>労働力を提供し合う、「結」という仕組みがありました。「結」で自分の家が助けてもらったら、「結がえし」といって助けてもらった家の仕事を労働力でお返ししました。



結による田植えの様子  
(大正時代頃 高根沢町  
阿久津眞氏撮影 県立博物館提供)



結によるかやぶき屋根のふきかえの様子  
(昭和期 那須塩原市(旧西那須野町)  
那須塩原市那須野が原博物館提供)

## 〈結・結がえしの説明〉

栃木県では、「ゆい」がなまって「よい」、「えい」、「よいどり」と呼んだり、県南地区(小山市など)では「イツパカ」、「イシゴト」などと呼んだりしました。

田植え、<sup>いね</sup>稲刈りの他にも、<sup>あさ</sup>麦刈り、麻の種まきなども結で行うことができました。

田植えなどの結では、必ず近日中に結がえしをしましたが、それ以外にも屋根ふき(カヤやワラで屋根をふくこと)や<sup>そつしき</sup>葬式なども、結によってお互いが助け合って行っていました。

結には、大変なときや困ったときに近所や地域の人どうしが助け合う、思いやりの気持ちがもとにあります。こうした結の心は、時代が代わっても失いたくないものです。

こま  
困ったときには、助け合うことが大切まる。助けてもらったら、お返しすることも大切まる。

